

2026 年度 A O 選抜 文学部 日本史研究学域
「人文学プロポーズ方式」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
日本史研究学域	27	15	10

2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

- ① 本学域で学ぶ強い意欲があり、本学域が志願者の希望に照らして適切である。
- ② 自分の考えを論理的に明確に述べられる。

(2) 解答状況

関心のある事柄について具体的かつ詳細に調べた例はよくできていました。学習意欲は総じて高かったが、一般論に終わっている解答が散見しました。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

- ① 自身の興味関心に基づいた研究課題の設定（自律的な問題発見）の内容。
- ② 課題・問題に対する探究の意欲と能力の有無。
- ③ 大学進学後のゼミでの学習などに必要な質疑応答能力の有無。
- ④ 高校の成績・学習計画書の内容などを参考とした、当該学域での学習をすすめられる基礎的学力の有無。

(2) 解答状況

- ① 研究課題の設定に対する探究力について、受験生により差が見られました。教科書や概説書、テレビ番組等からの情報に依拠した回答で終わり、「その考えは誰の意見ですか」という質問に答えられない場面も見受けました。参考文献など、論拠は明示してほしいと思います。
- ② 具体的な歴史事象について自ら調査し、詳細に検討した受験生がいた反面、研究テーマ設定が漠然としており、質問に対して曖昧な応答に終わる受験生もいました。

(3) 試験（プレゼンテーション・面接）内容

探究したいテーマについて 10 分間のプレゼンテーションの後、その内容に対する質疑応答を行いました。必要な基礎学力、自律的な問題発見能力、表現力、学習意欲（特に研究課題に対する意欲）を総合的に評価し、質問に対する論理的な応答も重視しました。

(4) 出題（プレゼンテーション・面接）の意図

大学進学後の学習についていけるか、現時点での学力とともに、進学後のポテンシャル

ル（潜在能力）を評価しました。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

- ①自身の興味関心に基づいて設定した研究課題に対し、どのように探究することで明らかにすることができるか（できたか）をプレゼンテーション・面接で表現して下さい。
- ②新書・選書など、学術書の入門的なものを何冊か読むことをお勧めします。特に研究課題に関わる書籍や論文などを自ら調べれば、さらに興味が湧くと思います。

以上